

発展し続ける中国・ハルビンの今

～第18回中国ハルビン国際経済貿易商談会に参加して～

莊内銀行 法人営業部 海外取引支援室長 石 井 康 一

今年6月に、中国黒龍江省ハルビン市で開催された「第18回ハルビン国際経済貿易商談会」への参加の機会を得た。この商談会の模様を中心に、めざましい変化を見せる中国東北地方、特にハルビンの状況について報告したい。

ハルビン国際経済貿易商談会は、中国最北に位置する黒龍江省の省都ハルビン市において、1990年の開催以降、その規模は年々拡大している。今年度は米国、ロシア、韓国および北朝鮮など、世界85カ国、中国国内30地域が参加した。6月15日から19日まで5日間の商談会期間中、来場者は約12万人、全体の商談成約額は主催者の発表で205.9億ドルを記録するなど、今や名実ともに中国東北地方最大の国家級商談会としての地位を確立している。

日本からは山形県その他、新潟県、宮城県、北海道の4道県および日本貿易振興機構（ジェトロ）が参加し、開幕初日には中国中央政府からの来賓として、唐家璇國務委員が会場内を視察した。



ハルビン国際経済貿易商談会を訪問された
唐家璇國務委員（写真中央）

大盛況の山形県企業の出展ブース

山形県では、1995年から毎年県内企業の出展団を派遣し、県産品の販路拡大や市場調査などで成果を上げており、今年度は初参加の5社を含む計12の企業が出展した。期間中は出展企業・団体毎にブース内に自社製品を展示し、地元大学の日本語学科在籍の学生通訳を介したデモンストレーションや商談を進めた結果、全体の商談件数471件中、7件218百万円の成約および10数件の商談が継続中という好成績となった。米沢市から出展した釣具メーカー（有）タナカSSの田中社長は、「中国ではルアー（疑似餌）釣り自体、まだ馴染みがないうえ海のない土地柄にもかかわらず、海釣り用の大きなルアーにかなりの関心が寄せられた」とブースでの予想以上の好反応に驚いていた。さらに釣具店に大型高級車で釣具を買いに来る大勢の買い物客を目の当たりにするなど、ハルビンの想像以上に発展している姿に、将来の中国国内販売を視野に入れたハルビンで独資による工場進出を検討したいと、相当の手応えを感じている様子であった。

県内企業のいずれのブースも連日大勢の来訪者で賑わい、特に今年度、山形県出展団は、ハルビン商談会組織委員会より「奨励賞」と「ディスプレイ優秀賞」の二つを受賞した。このようなダブル受賞は、日本からの出展では山形県と日本貿易振興機構（ジェトロ）のみという栄誉に輝いた。ここで今回の展示会に出展した県内企業の個別の状況について紹介したい。（企業名：敬称略）

◆阿蘇食品(株)（本社：酒田市）

展示品は庄内麩・麩菓子で、山形県からの出展ブー

ス中で来場者数が最多であった。来場者の反応を見ながら、味付けを変えて試食を行うなど評判は上々で、来場者増加の一因となった。なかでも台湾企業が興味を示し、台湾への麩の輸出に向け取組中である。社長は台湾や中国以外にも将来的にはロシアにも目を向けていきたいとしている。

◆(株)スズデン、情野冷熱機工(株)

(共に本社：米沢市、共同ブースで出展)

(株)スズデンは展示会で野菜・果物・海産物など、新鮮なままで風味を損なうことなく「常温・常圧」で乾燥できる超音波遠赤外線低温乾燥装置「ピュアドライ」を展示した。日本から持ち込んだパイナップル乾燥品の試食はかなりの評判を呼び、オーストラリアの企業から引き合いがあった。

情野冷熱機工(株)の展示物は、プッシュプル水平循環型気流膜発生装置「エアドア」で、左右一組の装置が気流膜を発生させ、気流の膜により小さな虫やホコリなどの室内への侵入を大幅に低減できる装置である。ハルビン市内の病院、デパートなどに、エアドアのような設備（技術）導入事例はなく、スズデンの乾燥機と同様、日本の先進技術に大勢の来場者が殺到し、早速デパートから装置についての問い合わせがあった。

◆出羽商事(株)（本社：酒田市）

「彩色耐火木材」という国土交通省の不燃認定を取得した素材を展示した。この不燃木材で高級家具を製作し、中国の富裕層に販売したい考えである。反響が大きく連日来場者の注目を集め、今後の中国ビジネスの足掛かりができたこと、社長の喜びの声があったほか、建機の輸出の商談も多数あった。

◆(株)平田牧場と庄内ゴルフ倶楽部（本社：酒田市）

(株)平田牧場はハム・ソーセージを冷蔵ケースにて展示した。来場者より試食希望の声が多数寄せられるなど、食の安全確保に揺れる中国国内での日本食品に対する関心の高さを感じさせた。

庄内ゴルフ倶楽部ではクラブ一式を展示した。ゴルフがまだ一般に浸透していないなか、時折、熱心にクラブをチェックする来訪者の姿が印象的であった。



阿蘇食品(株)ブースで庄内麩を試食する見学者

また同社ブースでは、山形県庄内地域の観光と物産などを壁面パネル、DVDを使って紹介していた。中国では「おしん」の存在は広く知られているが、故郷が「酒田」ということを知らない人が多く、その故郷である山形県からの出展団という事実に感銘を受ける訪問者も多数見られた。

◆(株)ウエノ（本社：鶴岡市）

各種コイルの販売、加工依頼、資材の調達の可能性を探るため出展し、ブースは連日大勢の来場者で賑わった。当社からの参加は黒龍江省出身の劉氏で、期間中は商談だけでなく各大学に出向き、当社東莞工場への就職斡旋活動も行っていた。

◆(株)エルデック（本社：酒田市）

出展は2002年以来2回目であり、目的は技術紹介、市場性調査などであった。展示品は広葉樹の木皮を3年以上堆積して高温発酵処理した良質な特殊肥料「吟遊詩人」。中国での販売は、菌の問題がありなかなか前に進めずにいる状況であるが、前回よりも反応は良いとの感想を述べていた。

◆後藤電子(株)（本社：寒河江市）

今回は3度目の出展で、展示品は足元暖房機、携帯型カイロ、暖房ベストの3アイテムであった。当社はすでに上海に現地企業を有しており、スタッフは上海工場から参加していた。言葉の壁がないことから商談もスムーズに進み、なかでも牛の形の携帯型カイロが子供に大好評で、連日多くの来場者で賑わった。

◆東亜熱研工業(株) (本社：米沢市)

昨年に続き2回目の出展で、展示品は木質床暖房ボード。現在、ハルビンではマンションの建設ラッシュであり、中国国内での床暖房・各種設備のニーズがないか模索中であった。中国の設備関係者が多数訪れ、連日盛況であった。

◆(有)能登山物産 (本社：鶴岡市)

1996年から11回連続で参加しており、屋外展示場での中古農機具、揚水ポンプおよび消防ポンプなどを展示した。連日の猛暑にもかかわらず、多数の来場者が訪れ、熱心な商談風景が数多く見受けられた。継続出展したことによる実績の蓄積により、現在では中国チチハルに合弁企業を有し(1995年設立)、中国国内でのビジネスを拡大している。

期待が高まる東方水上シルクロード

同商談会にはこれまで多数の県内企業が出展してきたが、その大きな原動力となっているのが、酒田市に設立された東方水上シルクロード貿易促進協議会の活動である。

酒田港開港500年にあたる1992年8月に中国黒龍江

省ハルビンから、松花江、黒龍江、アムール川、間宮海峡、日本海を経て酒田港に至る全長2,800kmの江海連運の新航路「東方水上シルクロード」が開設されたが、その2カ月前の同年6月に同協議会は、対岸との経済貿易交流拡大に心血を注ぐ平田牧場会長の新田嘉一氏の強力なリーダーシップの下、設立されている。翌1993年には山形県と黒龍江省との友好県省の盟約締結の環境整備に尽力するとともに、1997年6月には現地活動拠点としてのハルビン代表所を開設した。そして、飼料用とうもろこしの輸入や中古農機具の輸出など新航路活用による酒田港の活性化、現地最新情報の提供および合弁、合作事業の立ち上げ支援など着実に実績を積み重ね、山形県と北東アジア経済圏との経済交流拡大に多大な功績を残してきた。

昨年、東方水上シルクロードは、航路開設15周年の記念の年を迎え、同年の第17回商談会期間中には、盛大な記念式典がハルビン市内で開催された。式典には齋藤弘山形県知事、新田嘉一東方水上シルクロード会長、および当行頭取の町田をはじめ、日本側訪中団40名を含む日中両国合わせて約100名の関係者が出席するなど、今後の交流拡大に向けての期待は一段と高まりつつある。

発展可能性を秘めた黒龍江省

ハルビンは黒龍江省の省都であり、黒龍江省は周辺の遼寧省、吉林省と合わせ「東北三省」といわれている。東北三省は、1950年代には重工業を中心に中国経済の牽引役としての地位にあったが、長く続いた国有企業主体の計画経済体質の下で、設備や技術が老朽化している。1990年代の改革開放経済政策の導入以降、広東・上海を中心とする華南・華東の沿海地区に比べ経済発展の遅れは否めない。また、東北三省のなかでも瀋陽市および大連市を抱える遼寧省と、内陸部に位置する黒龍江省、吉林省とでは発展のスピードにかなりの格差が生じている。

しかしながら、中央政府が中国東北地域の経済再生、活性化を旗印に優遇税制の導入や国有企業の改革支援策などからなる「東北旧工業基地振興政策」を打ち出した2003年以降、黒龍江省のGDPの成長率は、毎年継



開設が待たれる第二のシルクロード「スィフンガルト」

続して年率10%を超えるなど、今後の動向に内外の注目が集まっている。実際ハルビンを訪れるといたる所でビル建設現場に遭遇し、数年前随所に見られた粗末なレンガ造りの建物は表通りから姿を消している。

現在の商談会場であるハルビン国際展示センターの地下は、洋風の名前のついた中国ブランドの高級ファッション専門店やファースト

フード店が多数入居する広大なショッピング街となっており、また市内には「カルフル」や「ウォルマート」などの外資系スーパーも見られ、連日多くの買い物客でごった返すなど、生活水準の着実な向上を実感することが出来る。

今年8月、中国政府は2020年を目途にした、「東北地区振興計画」を発表した。この計画は2003年から進めている「東北地区旧工業基地開発計画」や、「第11次5か年計画（2006～2010）」の精神を生かして策定された総合計画で、今後の東北振興施策の指針となるものである。主な内容としては、従来の東北三省に内モンゴル自治区東部を追加し、2010年の一人当たり域内総生産（GDP）を02年比で倍増させるなどの数値目標を導入、20年までに同地域を国際競争力のある製造業拠点に転換し、農牧業生産、研究開発、原材料エネルギーの各分野で国家の重要基地に育てる計画である。

このように、山形県と日本海をはさんだ対岸の中国東北地方が新たな成長地域として現実味を帯びるなかで、「北東アジア経済圏」という中・長期的視点での交流の重要性が高まっている。その意味では、黒龍江省は①省内に3,800万人（ハルビン市内は約1,000万人）の人口を抱える極めて大きな市場を持つこと、②数多くの大学や研究機関などが集積し、工業ロボットや宇宙ロケットなど、科学技術では全国トップレベルにあること、③石油、石炭、鉱産物および木材などの天然資源、米、トウモロコシ、大豆など食糧生産の一大基地であること、④ロシア貿易の最大基地として、ロシア沿海地方との間に共通する市場があること、⑤東北地区の特徴として、地理的、歴史的な結びつきから優秀な日本語人材が比較的多く集まることなどの優位性

東北三省、黒龍江省、ハルビンの主要指標（2006年）

項 目	東北三省合計		黒 龍 江 省		ハルビン市(全市)	
	数 値	前年比	数 値	前年比	数 値	前年比
面積(万Km ²)	78.9		45.4		5.3	
人口(万人)	10,817	2.0%	3,823	2.4%	975	0.5%
GDP(億元)	19,723	13.5%	6,217	12.0%	2,094	13.5%
一人当たりGDP(元)	17,898	13.0%	16,268	11.9%	21,481	12.9%
在留邦人数	5,412	24.5%	233	13.7%	190	8.5%
進出日系企業数	928	9.0%	16	▲5.8%	14	▲6.6%

資料：中国・東北地方の経済動向（在瀋陽日本国総領事館）から、筆者作成。人口の前年比は「自然増減率」（その年の出生率－死亡率）の数値。

により、極めて高い発展可能性を秘めている。また、現在冬季間の凍結などの為、通年活用出来ない現行ルートのほかにハルビンから、スイフンガ、ウラジオストク、酒田港に至る第二のシルクロード「スイフンガルート」航路開拓の動きがスタートしており、実現すれば従来ルートと比べ、距離が約1,300キロ短縮され、輸送コストの大幅な削減が期待される。

中国ビジネス参入を全面的にサポートする荘内銀行

荘内銀行は、1997年の第8回商談会以降、毎年ハルビン商談会に行員を派遣し、現地情勢の調査および貿易投資情報の収集を実施し、年々大きく発展するハルビンの様子や業務斡旋情報などを地元企業の皆様に提供してきた。初めて、または久しぶりにハルビンを訪問したお客様は、一様に整然とした街並み、行き交う高級車や人々の生活レベルなど、事前に想像していた以上に、ハルビンが大きくまた都市化している現状に驚き、そこに何らかの可能性を感じて帰国されている。

冬場の気候の問題や、下請けを担う企業や基盤となる産業など、いわゆるサポーターインダストリーの圧倒的な不足など、乗り越えるべき課題は依然少なくないものの、重工業と農業の二大基地を有する黒龍江省では、日本企業の得意とする省エネルギーや環境保全型企業に大きなビジネスチャンスがあると考えられる。

荘内銀行では単に決済面での支援だけではなく、その様な現地ニーズを数多く発信するなど、地元企業の皆様が中国ビジネスに参入する動きを金融情報サービス面から全面的に支援、協力出来るように努めていきたい。